

2月15日、第6回守口

大根長さコンクールを、
市役所1階南エリア大会
議室で開催しました。13

団体と個人9人から作品
出品がありました。

当日は、もりぐち夢・
未来大使の池乃めだかさ
んを特別審査員として、
司会には吉本お笑い芸人
のSpan!さんを迎
え、多くの観覧者の中で
コンクールが始まりまし
た。Span!さんの軽
妙な司会と、池乃めだか
さんの楽しい喋り口調で
会場は笑いの渦に。

作品の計測後、結果発
表までの時間には、守口
市の指定無形民俗文化
財、寺方提灯踊り保存会
による河内音頭寺方節
「守口大根物語」が披露さ
れました。

個人の部1位 藤田義穂さん
記録【174cm】
▽団体の部2位 船木工務店
記録【136cm】

▽個人の部1位 六倉幸代さん
▽団体の部特別賞 大宮保育所
▽個人の部特別賞(特別審査員賞) 藤田義穂さん
記録【185cm】

▽団体の部特別賞
(栽培協力者
シルバー人材センターの会員)

個人の部
特別賞

守口大根の由来

大阪城が築城される以前の安土桃山時代(16世紀ごろ)と、栽培の歴史は古く、淀川沿いの大坂天満宮付近や長柄、橋寺付近に長大根として栽培地が点在しており、当時の一寒村であった守口の中洲(外島、狼島、土居)で栽培されていましたが、大阪城が1583年に築城され、城下町の発展とともに付近の市街地化が進み、江戸時代後半にはこの付近の長大根の栽培は消滅しました。

岐阜県の木曽川沿いで栽培され「守口漬」として販売されています。16世紀ごろから20世紀初頭まで大阪市から守口市の淀川沿いで栽培され、その後宅地化などで大阪府内での栽培が途絶えていましたが、守口都市農業研究会が、復活に向けて取り組んでいます。

本市の伝統野菜である「守口大根」は、平成19年に大阪府の「なにわの伝統野菜」に認証されました。現在は、愛知県・岐阜県の木曽川沿いで栽培され「守口漬」として販売されています。

長さ世界一の大根

大阪天満宮周辺を発祥とする「大阪

宮前大根」の香の物を、豊臣秀吉が大阪城と京を往復する折、守口の地で休息を取った際に献上したところ、風味が格別だったことを大いに賞賛しその名を「守口漬」と命名したことから、その後守口大根と呼ばれるようになつたと伝えられています。

注 狼島は旧守口市役所から、守口小学校西側一帯にあった中洲

守口大根長さコンクール



守口大根長さコンクール

審査の結果は次のとおりです。

▽団体の部1位

船木工務店

記録【136cm】

▽団体の部2位

藤田義穂さん

記録【174cm】

▽個人の部1位

六倉幸代さん

記録【185cm】

▽団体の部特別賞

大宮保育所

▽個人の部特別賞(特別審査員賞)

六倉幸代さん

記録【185cm】

▽団体の部特別賞

シルバー人材センターの会員

記録【185cm】



団体の部特別賞
(栽培協力者
シルバー人材センターの会員)

個人の部
特別賞



問 地域振興課 TEL 06-6992-1491



なにわの伝統野菜
守口大根、玉葱、金時人参、辺大根、茄子、玉造黒門越瓜、勝間南瓜、三島独活、芽紫蘇、高山真菜、吹田慈姑、泉州玉葱、難波葱、碓井豌豆、高山牛蒡、守口大根、

大阪府では、100年以上前から生産されており、苗や種子などの来歴から品種など、大阪独特の昔ながらの伝統野菜を見直そうと、平成17年から「なにわの伝統野菜」の認証制度を作り、伝統野菜の復活に取り組んでいます。「毛馬胡瓜」「天王寺蕪」「大阪しろな」など17品目が認証されており、平成19年には「守口大根」が16品目として追加、現在では「難波葱」が今冬、新たに仲間入りし、合わせて18品目になりました。



昨年12月に行われた守口大根収穫祭にて